

鳥 取 県

鳥 取 県 退 職 校 長 会

設立 昭和50年7月1日

1 現在までの歩み

鳥取県退職校長会は、全国連合退職校長会設立から10年後の昭和50年7月1日に設立され、令和7年度設立50周年を迎えます。設立当初は、会員数100名程度と記録されていますが、現在は、716名の会員と現職校長167名による準会員で構成されています。

活動は、県内10の支部活動を基盤とし、県組織にある「総務研修」「調査広報」「福利厚生」の3つの専門部で組織的な活動を進めています。また、会員個々が長年培ってきた経験を活かして、県内各地で学校支援や地域貢献活動に取り組んでいます。



県代議員会

2 活動状況

本県退職校長会は、「本県教育の振興への寄与と会員の福祉増進」を目標に活動を進めてきました。この度、設立50周年を迎えるにあたって、会の設立目的を再確認するとともに、会員の思いを活かした活動を展開するように努めています。

具体的な活動として取り組んでいるのが「県教委要望」と「教育懇談会」の実施です。「県教委要望」は、学校が抱えている課題を把握した上で、退職校長会としての意見を付け加え、県教育委員会に改善や具体的な対応を要望するものです。県教育委員会からの回答は会報などを通して全会員に周知しています。

「教育懇談会」は、県教育委員会、小・中・高・特別支援学校現職校長会と退職校長会の3者が一堂に会して、学校が抱えている課題について意見交換を行っています。具体的な課題解決には時間がかかりますが、お互いが問題意識を共有し、それぞれの立場で取り組みを充実させていくことを願っています。

また、会員の実態や思いを活かして活動を進めるために、「退職後の生きがいに関する全会員アンケート」を実施しました。会員個々の退職後の生き方の満足度、将来の生活で不安を感じる事、今後のどのような生き方をしたいと考えているかなどを調べたものです。会員の現状や願いなどを把握する上でたいへん役立ちました。



教育懇談会

現在、この結果をもとに具体的な対応策を検討しているところです。

会員の高齢化や加入率の低下などの課題もありますが、50周年を期に退職校長会の存在意義を意識しながら、活動を充実させていきたいと考えています。